

ご両親にも先生方にも
会社の方々にも
読んでいただきたい
パンフレットです



————— すべての子どもたちの個性を大切にする —————



一般社団法人 **日本LD学会**
Japan Academy of Learning Disabilities



気づいてあげて。
すべてはそこから始まります。

LD、ADHDなど発達障害のある子どもたちの特性を正確に理解してほしい。
すべては、そこから始まります。

素晴らしい記憶力の持ち主なのに国語の音読がうまくできない、算数は得意なのに漢字を覚えることができない、昆虫や鉄道については博識なのに同年齢の子どもとのトラブルが多い、授業中に立ち歩いてしまう……このような特徴をもった子どもたちに出会ったことはありませんか。なぜこんなことができないのだろう、なぜ立ち歩くのだろう、と不思議に思われるかもしれません。

このような特徴を示す子どもたちの中には、LD(学習障害)やADHD(注意欠如多動性障害)、あるいはASD(自閉症スペクトラム障害)などの発達障害という障害をもつ子どもがいます。決して子どもたちがわざと先生を困らせたくて立ち歩いているわけではありませんし、学習中に怠けたりふざけたりして学習につまずいているわけでもないのです。

しかし、このような特徴をもつ子どもたちがいることを周囲の人たちが知らないと、子どもたちはどうしても注意されることが多くなりますし、学習場面では「できない」という経験を積み重ねることになってしまいます。このような子どもたちがいることを知ってほしい、そして適切な支援を受けて子どもたちに育ててほしい、という願いのもとに、日本LD学会は活動しています。

日本LD学会の会員は、教員や心理・教育・医療・福祉の研究者、行政に携わる方々、民間教育機関の支援者、そして保護者などで構成されています。子どもたちのために、そして子どもたちが生きやすい社会を作るために、正しい理解と支援方法を共に追求しませんか。

しつけや努力不足の
せいではありません。
子どもたちには、
正しい支援が必要です。



LD、ADHD、ASD とはなにか。 まず、正しい定義を知って下さい。

LD(学習障害)とは、基本的には知的発達遅延はありませんが、聞く、話す、読む、書く、計算や推論することなどに困難を示す状態をさしています。読み書きが困難な子どももいれば、読み書きは得意だけれど話すことに困難を示す子どももいます。これらの困難さは決して本人が怠けているわけでも育て方に問題があるわけでもありません。


年齢に不釣り合いな注意力の問題や多動性、衝動性などを特徴とする行動面の問題を示す子どももいます。ADHD(注意欠如多動性障害)という障害を持っている場合があります。LDとADHDを併せ持っている子どももいます。

また、他者との社会的関係を形成することが難しかったり、興味や関心の幅が狭かったり、特定のものにこだわるという特徴をもっている子どももいます。ASD(自閉症スペクトラム障害)といわれる子どもたちです。言語発達の遅れを伴う、知的発達に遅れがない、言語発達にも知的発達にも遅れがない子どもなど多様な状態像を示します。いずれも中枢神経系の機能障害によるものであると推定されています。

100人100通りの個性に応じた支援方法があります。 私たちはそれを研究し、実践に活かしていきます。

多様な子どもたちの多様なニーズに応じた支援を実施していくことは決して簡単なことではありません。子どもそれぞれの得意な部分と苦手な部分を把握し、得意な部分を活かしながら不得意なことにチャレンジする方法を考えます。

まずは気づくこと、そして子どもの状態を正確に総合的に把握すること(アセスメント)が必要です。アセスメントの結果に基づき、子どもに適した支援を実施していきます。支援の経過を評価することも大切です。支援方法が適切であるかどうかを評価し、修正を繰り返しながら、子どもたちが生活しやすくなるような、学習に取り組む意欲が高まるような、そして自分を好きでいられるような支援を実施していきたいと考えています。



すべての子どもたちの
個性を大切にする社会。
それが、
私たちの目標です。

**すべての人の個性を大切にす社会。
日本LD学会はそういう社会をめざします。**

日本LD学会は、1992年、LDをはじめADHDやASDなど発達障害のある人々に対する正しい理解と科学的な支援を求め人々によって設立され、会員が1万人を超える大きな学術研究団体です。そこには、幼児から児童・生徒の教育に携わる学校現場の教師、地域でさまざまな啓発などの実践活動をしている保護者、そして医療、教育、心理、福祉、労働、司法などの領域で仕事をしている専門家たちが参加しています。

LDなどのある人々はたいへん個性的な状態にあるといわれます。こうした個性的な状態は周囲から理解されにくく、わがままとか、自分勝手とか、しつけが悪いなどといった誤解を受けやすいのです。同時に、学校でも学習や行動面で大きな不利をこうむりやすくなります。成長過程でこうした不利さが高じると、意欲や自信を失ったり、人間として大切な自尊心さえ失いがちになったりします。また対人関係でもさまざまなトラブルを抱えやすく、学校だけでなく、家庭や地域、さらには社会生活などでも不適応を起こしたり、不利さをさらに増大させたりすることにもなりかねません。

私たちはこうした人々の抱える問題や困難にたいして、できるだけ早期に気づき、よりよく発達を保障することが何よりも大切だと考えています。彼らが自分自身の力で自立し、社会参加していく道をしっかり拓いていくためにはよりよい支援が必要です。その土台となるのは科学的な研究と実践による経験の積み上げです。日本LD学会の背景にある、ひとりひとりの個性を尊重する考え方は、LDやADHDなど、発達障害のある子どもだけでなく、すべての人々の尊厳と生き方を大切にするものです。子どもが生活して生きていくうえで基本的な学習能力をしっかりと身に付け、社会という人々の営みの輪の中でたくましく生き、安心して歳を重ねていける社会こそ、私たちがさまざまな個性や障害を認め合いながら共に生きていく明日の豊かな社会ではないでしょうか。

一般社団法人日本LD学会とは

一般社団法人日本LD学会は、LD(学習障害)・ADHD(注意欠如多動性障害)等の発達障害に関する研究・臨床・教育の進歩向上を図るとともに、LD等を有する児(者)に対する教育の質的向上と福祉の増進を図ることを目的に、1992年に設立された学術研究団体です。会員は、教育、心理、医療、福祉、行政などに携わる実践家や研究者、保護者等によって構成されています。

正会員：10,307名 | 名誉会員：21名 | 機関会員：49機関 | 賛助会員：2機関

(2019年7月1日現在)

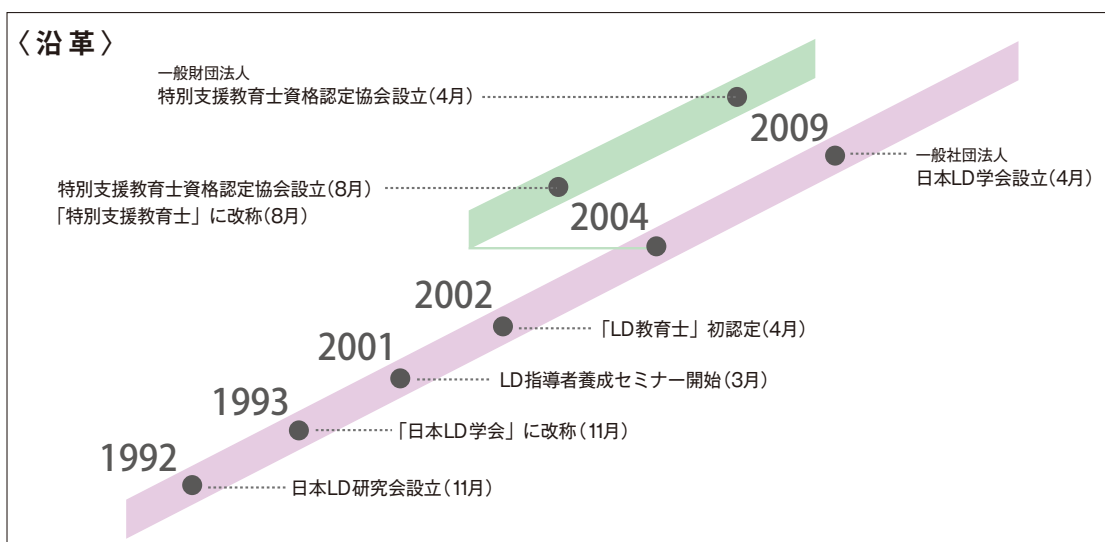
入会条件

1. LD等に関する科学的研究・臨床および治療・教育に携わっている者の中で、原則として四年制大学卒以上の学歴を有する者
2. 前項に準ずる者
短期大学・専門学校卒で、ST・OT・看護師・保育士等の資格を有し、教育・医療・福祉等の関連領域に従事する者

入会方法

入会をご希望の方は、ホームページの「入会案内」からお申込み下さい。理事会・常任理事会で入会審査(年6回)を行い結果を通知します。

詳しくはホームページをご覧ください。 URL <http://www.jald.or.jp>



主な事業内容

研究

LD・ADHD・ASDなど、発達障害のある人々の実態を明らかにし、自立と社会参加に必要な支援のあり方を科学的に求めていく調査・研究を行っています。

年次大会 研究集会

会員が、研究・臨床・教育などの成果を発表し、新しい知識や考え方を学ぶための年次大会・研究集会を開催しています。

研究助成

「上野一彦基金若手研究奨励プロジェクト」を設立し、今後の学会および特別支援教育の発展に寄与することができる若手研究者の育成のため研究助成を行っています。

機関誌

会員の研究や実践の成果を掲載するための機関誌「LD研究」を年4回発行しています。



会報

会員がLD等に関する新しい情報を得るための会報を年4回発行(Web)しています。



連携

内外のLD関係諸団体等との連携を深めています。

- （ 一般財団法人特別支援教育士資格認定協会
- 一般社団法人日本発達障害ネットワーク (JDD net)
- 一般社団法人日本心理学諸学会連合 他

震災支援

震災の被害を受けた県からの依頼により、研修会の講師を派遣しています。研修会のテーマに応じて、専門性の高い会員が講師を務めます。

日本LD学会での成果を 実践の場で生かしていくために

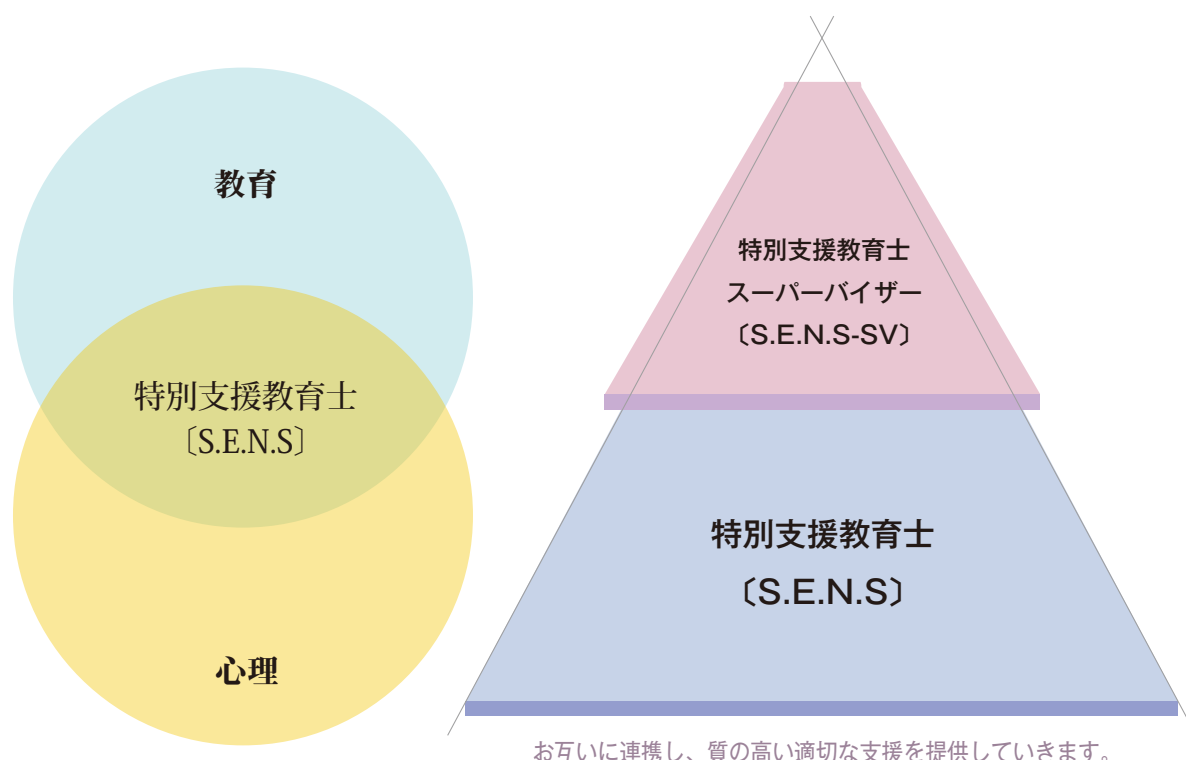
特別支援教育士〔S.E.N.S〕という資格

「特別支援教育士(Special Educational Needs Specialist = 略称 S.E.N.S)」は、一般財団法人特別支援教育士資格認定協会が認定する、心理と教育の二つの領域にかかわる専門資格であり、LD・ADHD 等のアセスメントおよび個別の指導計画の立案と実施ができる力を備えています。S.E.N.S は、日本LD学会の正会員であることが資格認定条件の一つになっています。また、S.E.N.S の上位資格である特別支援教育士スーパーバイザー〔S.E.N.S-SV〕は、特別支援教育に関する啓発活動や周囲の人たちへの指導助言、地域における支援体制の構築と推進等、社会的リーダーシップと専門性のある、特別支援教育の「真のプロフェッショナル」です。

本会での研究成果を実践の場に生かし、全ての子どもがより良い支援を受けて成長していくことができるように、多くの方に S.E.N.S の資格を目指して頂きたいと思います。

詳しくは、一般財団法人特別支援教育士資格認定協会ホームページをご覧ください。

URL <http://www.sens.or.jp>



すべての個性を尊重する、新しい時代に向かって

LDという非常に個性豊かな子どもたちとながく関わってきて、大切なことを三つ教えられました。ひとつは、「その個性が不利を被るとき障害となる」ということです。正しい理解がなく、適切な対応がなされなければ、子どもの受ける不利は表面化し増大します。よりよい理解と上手な対応があれば、大きな不利を負わずに乗り越えていく可能性が高くなります。

二つ目は、「障害は連続する」ということです。往々にして私たちは物事を単純に二分して考える癖があります。障害と健常、あるいは病気と健康も同じです。状態を二分することは、措置や支援の範囲を決めたり、その判断を共有したりするには必要なことかもしれない。ただ、それは判断のために設けた区切りであって、実際に状態は連続していることが多いものです。LDなどはまさにそうした存在であり、障害と健常の中間に位置する、その間を結ぶ架橋であると思います。同じことは支援にも言えます。たくさんの方の支援を必要とするひとから、少ないけれども必要なひと、必要かどうかまだ十分に分からないひとまで連続しているのです。

三つ目は、「LDは見えにくい障害」であるということです。LDは認知面での部分的な不具合やバランスの悪さがあるために、学習のどこかに遅れや困難を示しやすいのです。見えにくいということは、理解しにくさや、気づきにくさにもつながるので、対応が遅れがちにもなりやすいわけです。

本会の名称でもある「LD」は、Learning Disabilities の頭文字ですが、同時に Learning Differences (学びの相異)、つまり学びにもいろいろな学びがあるという言葉の頭文字でもあります。「私たちの教え方で学べない子どもには、その子どもの学び方で教えなさい」という言葉があります。子どもの個性を理解し、その個性的な学びを受け入れることは教育にとって大切なことだと思います。

LDやADHD、ASDなど、いわゆる発達障害とよばれる子どもたちは、多様な学び方をもった個性を特徴とする子どもたちです。LDなど発達障害の子どもたちへの支援教育は、すべての子どもたち、すべてのひとびとの個性を尊重する、新しい時代の生き方や教育・福祉の支援の扉を開く大切な「鍵」を提供してくれます。

一般社団法人日本LD学会
理事長 柘植 雅義



障害とは、理解と支援を必要とする個性である。



一般社団法人 **日本 LD 学会**
Japan Academy of Learning Disabilities



〒108-0074 東京都港区高輪 3-24-18 高輪エンパイヤビル 8F
tel.03-6721-6840 <http://www.jald.or.jp>